

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	16-324	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Influence of Tiopronin on the Metabolism of Alcohol in Healthy Subjects. 健全な被験者におけるアルコールの代謝に関するチオプロニンの影響		
<b>執筆者</b>		
Nass F <sup>1</sup> , Schneider B <sup>2</sup> , Wilm S <sup>3</sup> , Kardel B <sup>4</sup> , Gabor E <sup>5</sup> , Merges F <sup>5</sup> , Kroll M <sup>6</sup> .		
<b>掲載誌</b>		
Drug Res (Stuttg). 2017 Apr;67(4):204-210. doi: 10.1055/s-0042-123826		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
チオプロニン、アルコール代謝、アルコール血中濃度		28142160
<b>要 旨</b>		
<p>要約</p> <p>薬物安全性と薬物とアルコールの相互作用に関する研究は、主に高い金銭的利益を有する頻繁に処方される薬物に対して行われてきた。チオプロニン (ORPHA25073) のようなオーファン薬は、しばしば臨床研究で無視されてきた。チオプロニンは、シスチン尿症の治療に主に使用される薬物である。本研究では、チオプロニンとの相互作用をアルコールの代謝 (主目的) とアルコールと組み合わせた時のチオプロニンの安全性に関して健康なボランティアで試験した。無作為化二重盲検クロスオーバー試験では、体重 1kg あたり 0.8g のアルコールを摂取する 1 時間前に、チオプロニン 500mg または同じような外形のプラセボを服用した。血中アルコール濃度は、アルコール消費後 12 時間にわたって測定した。7 日後に、以前のプラセボ群には活性薬物を、活性薬物群にはプラセボを投与する実験を繰り返した。血中アルコール AUC および排泄速度 k の変化を、両側 t 検定を用いて分析した。さらにアセトアルデヒド濃度を測定した。そして、被験者の集中力を試験し、副作用を記録した。血中アルコールまたはアセトアルデヒド濃度に有意な変化はなかった。集中テストの大きな違いは、おそらく学習効果を指している。重篤な有害事象は発生しなかった。すべての有害事象は可逆的であり、薬物とプラセボ群の間に有意な差はなかった。これらの結果から、チオプロニンがアルコールの代謝に影響しないことが実証された。アルコールと組み合わせたチオプロニンの摂取は、健康な被験者に対して安全性上の問題を持たない。</p>		